

## 2 受診時のポイント

(休日や夜間の急病時には、小児初期救急医療センターや地域の救急医療システムを利用できます。☎ P-1 参照)

1 できるだけかかりつけ医療機関の診療時間内に受診しましょう。

2 診察室でたずねられることをあらかじめ整理しておきましょう。☎ P-6 参照

- 気になる症状はどんなことですか？
- その症状はいつからありますか？ (何時頃から、1日何回くらいなど具体的に)
- 今までに大きな病気にかかったことがありますか？
- 薬や食べ物にアレルギーがありますか？
- 家族にも同じような症状がありませんか？



3 こどもの症状や様子がわかる人が一緒に行きましょう。

4 診察を受けるときに持って行くものをチェックしましょう。

- 母子保健手帳、保険証、受給者証、診察券
- 子供の状態がわかるもの (例 体温・症状を書いたメモ (P-6 参照)、便・便の写真)
- お薬手帳 (飲んでいる薬や薬の名前が分かるもの)
- ミルク・飲み物、ほ乳ビン、着替え、タオル、替えオムツ、ティッシュペーパー、ビニール袋 (汚物入れ)、待ち時間のためのオモチャや絵本 など

## 3 救急車の利用のしかた



こんなときは救急車を利用してください

- 意識がない
- けいれんが止まらない
- 息づかいが少なく、呼吸が困難になっている
- 激痛 (頭痛・腹痛・胸痛) がある
- 出血が激しく止まらない

救急車の呼び方

「119番」に電話すると…

消防署から次のようなことを聞かれます。落ち着いてはっきりと、簡潔に教えてください (このガイドブックの最後のページに問答欄があります。あらかじめ記入しておくとういでしょう)。

- 火事ですか？ 救急ですか？
- どうしましたか？
- 住所、名前、年齢は？
- 電話番号は？
- 目標となるものはありますか？



- 救急です。
- 子供が頭を打って意識がありません。
- ○○○ △△△ □歳です。
- ○○○-○○○○です (携帯電話も可)
- 近くに□□□学校があります。

※応急処置 (人工呼吸、心臓マッサージ等) などを指示されたら、その指示に従ってください (P-27参照)。

※携帯電話の場合は、どこへ行けばいいのかをはっきりと伝えてください。目標となる建物や、高速道路の場合は、上り車線か下り車線かを伝えてください。